

都市不燃化同盟が戦災復興に向けた 国民の思いを結集させた

田中哮義 (日本火災学会会長・京都大学名誉教授)

日本は歴史的に夥しい都市大火に悩まされてきた国であり、遠く江戸時代から都市大火の撲滅が悲願であった。明治時代からは西洋の都市に倣った不燃都市の建設が叫ばれるようになったものの、資金的・技術的な困難のため都市不燃化事業は遅々として進まず、大正一二年の関東大震災では未曾有の大規模被害を経験することになる。しかし、それより遙かに甚大・深刻な火災被害は日米戦争における米軍空襲による火災であった。灰燼に帰した日本全土の都市の惨憺たる有り様は、国民にとって言葉で表せないほどの衝撃であり、以前にも増して都市不燃化への思いを切実なものにした。

都市不燃化同盟は昭和二三年、建築学会に設置された都市不燃化促進委員会における田辺平学の提唱に始まる。この同盟の目的は都市不燃化についての国民的関心を高め、防災技術者と行政が協力して、戦災で破壊された日本の都市を防火的で文化的な都市として再建することであった。同盟は、呼びかけに応じて参加した関連学・協会、自治体、企業などを会員として、昭和二三年に発足した。また政界もこれに迅速に呼応し翌昭和二四年には不燃化促進議員連盟を結成して全面的な協力体制を敷いた。

【復刻版】 都市不燃化 全3巻・別冊1

都市不燃化同盟発行 (1949年〜1959年)

◆体 裁―B5判・上製・総1,604頁

◆別 冊―解題・総目次・索引
※別冊のみ分売可 (本体1,000円+税)
ISBN 978-4-330-77612

◆解 題―初田香成 (東京大学大学院工学系研究科建築学専攻助教)

◆推 薦―内田青蔵・鈴木 淳・田中哮義・西村幸夫
◆揃定価―本体75,000円+税
ISBN 978-4-330-77598

◆刊 行―2014年11月

◆原本提供―公益財団法人 後藤・安田記念東京
都市研究所市政専門図書館



昭和28年度京都市府住宅協会建設堀川通榎木町団地

関連図書のご案内

【都市計画協会刊 (昭和20年〜35年)
新都市 全20巻・別冊1

本復刻版は後藤新平が会長を務めた都市研究会発行『都市公論』の後継誌である『復興情報』『新都市』を取録。戦後の都市問題を技術的側面に偏することなく広く論じ、市政問題などにも触れている貴重資料である。

別冊II解題 (越澤 明・総目次・索引
体 裁II B5判・上製・総8,900頁
推 薦II 石田頼房・西山康雄・八木田功・渡辺俊一
揃定価II 本体380,000円+税

【都政人協会・出東京都自治振興会刊 (昭和31年〜42年)
『町会』『町と生活』 全11巻・別冊1

戦後、近代日本における町内会は大きな変容を遂げた。新たな町づくりの様相を俯瞰でき、行政と住民との懸け橋としての役割を果たした東京都の町内会の実態を伝える『町会』及び改題誌『町と生活』は、同時代のコミュニケーション政策・都市社会学・行政史研究の基礎資料である。

別冊II解題 (吉原直樹)・総目次・索引
体 裁II A5判/B5判・上製・総6,248頁
推 薦II 雨宮昭一・中田 實・西尾 勝
揃定価II 本体180,000円+税

【内山模型製図社刊 (昭和6年〜10年)
東京地籍図 全26巻・付録CD9枚・別冊1

関東大震災からの復興期、首都東京では区画整理が始まり町名番地が変更された。当時の「地籍図」と「地籍台帳」が、戦前期東京の景観復元を可能にし、社会・経済構造を解析する。

別冊II解題 (田中 傑・中島直人・野村悦子・初田香成)
付録II 地籍台帳データCD
体 裁II B5判/A3判・上製・総7,498頁
推 薦II 伊藤毅・北原泰子・松山 巖・水内俊雄
揃定価II 本体510,000円+税

都市不燃化

都市不燃化同盟発行 (1949年〜1959年)

◆体 裁―B5判・上製・総1,604頁

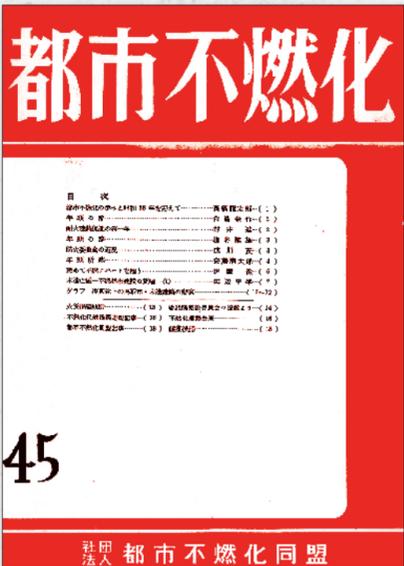
◆揃定価―本体75,000円+税
ISBN 978-4-18-350177-5 918

◆別 冊―解題・総目次・索引

◆解 題―初田香成 (東京大学大学院工学系研究科建築学専攻助教)

◆推 薦―内田青蔵・鈴木 淳・田中哮義・西村幸夫

◆原本提供―公益財団法人 後藤・安田記念東京都市研究所市政専門図書館
◆刊 行―2014年11月



【復刻版】全3巻・別冊1

1950年代に隆盛を誇った都市不燃化運動を牽引した「都市不燃化同盟」機関誌を復刻。戦後建築・都市計画の推移が伺える貴重資料である。

都市不燃化の構想をいま振り返る

西村幸夫

(東京大学先端科学技術研究センター所長・東京大学大学院工学系研究科教授)

従来はすべて木造でできていた日本の都市にとって、不燃化はこれまで長い間主要な都市問題であり続けた。近世における防火対策である土蔵や蔵造りの商家にはじまり、近代の鉄筋コンクリート造の耐火建築、旧都市計画法から始まる防火地区指定なども不燃化の絶え間ない努力の一環だった。ただし、点での不燃化だけでは不十分で、都市スケールで線や面としての積極的な不燃化が必要である。

そのことを戦後すぐに主唱し、都市運動として担ったのが都市不燃化同盟である。本書はその同盟の機関誌として一九五〇年代を通じて世論を喚起し、法律制定に寄与するなど、日本の都市不燃化におおきな役割を果たしてきた。とりわけ一九五二年の耐火建築促進法の成立にあたっては鍵となる役割を果たしている。同法によって全国各地の中心市街地に防火路線帯が建設されていった。現在もその姿は福島市、太田市、桐生市、新潟市、横浜市、静岡市、沼津市、名古屋市、岡山市などの都市に見ることができている。

これらはたんに線としての都市不燃化を担っただけでなく、建築の集合化を通して新しい都市づくりの絵姿を提起したのである。その典型がモダンズム建築の展示場とも言える鳥取市若桜街道沿道の防火帯である。

耐火建築促進法は、その後、面的な不燃化へと戦線をひろげる防災建築街区造成法(一九六一年)、さらに現行の都市再開発法(一九六九年)へと発展的に受け継がれていった。

都心の再生が叫ばれる今日、その原点のひとつである都市不燃化運動が内在させていた構想を、もういちど振り返ってじっくり見返すことは意義のあることだといえる。

表示価格は、全て税別

不二出版

〒110-0033 東京都文京区向丘1-1-1
TEL 03-3811-4433
FAX 03-3811-4433
振替 00313822140464
001601194084

